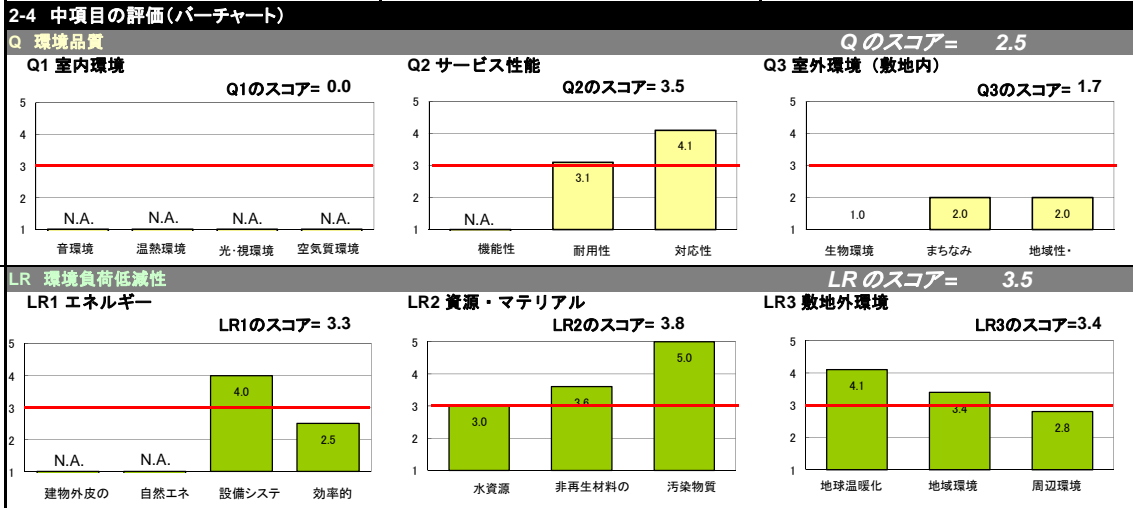
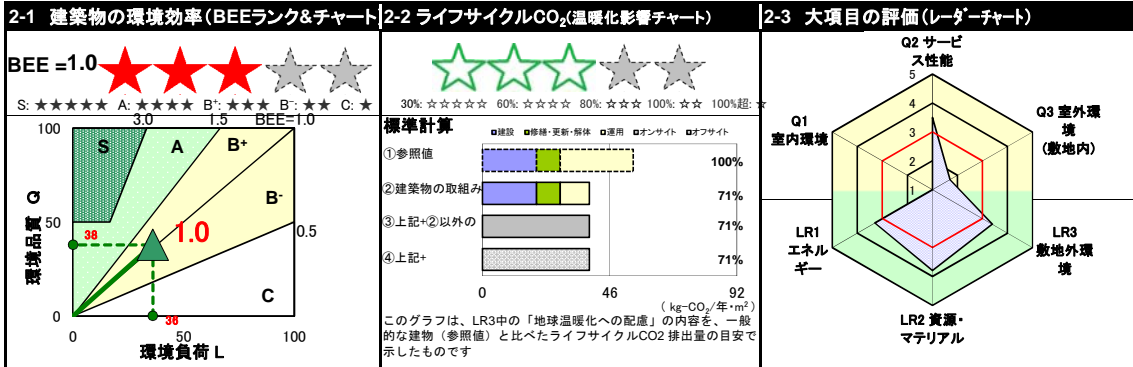


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社大綿 本社工場	階数	地上1F
建設地	愛知県愛西市北一色町東田面226	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	20人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月 予定	評価の実施日	2016年5月25日
敷地面積	4,793 m <sup>2</sup>	作成者	瀬古 好美
建築面積	2,075 m <sup>2</sup>	確認日	2016年5月25日
延床面積	2,075 m <sup>2</sup>	確認者	瀬古 好美



### 3 重点項目

①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	④地域材の活用
4.1	1.0	1.0
②資源の有効活用	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	
3.5	3.0 %	
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	
	0.0 %	
	<外装材に使用した地域性のある材料>	
	なし	
	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	
	なし	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
2 アスベスト対策								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								
<b>3 対応性・更新性</b>								
3.1 空間のゆとり								
1 階高のゆとり								
2 空間の形状・自由さ								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								
1 空調配管の更新性								
2 給排水管の更新性								
3 電気配線の更新性								
4 通信配線の更新性								
5 設備機器の更新性								
6 バックアップスペースの確保								
		②	カラーガルバリウム鋼板 外壁地下プラスターボード及び鉄骨胴縁現し 配管用炭素鋼管(白)(消火) 消火ポンプ	3.1	0.52	-	-	3.1
		②		3.0	0.48	-	-	
		②		3.0	0.80	-	-	
		②		3.0	0.20	-	-	
		②		4.0	0.33	-	-	
		②		3.0	0.25	-	-	
		②		5.0	0.25	-	-	
		②		5.0	0.10	-	-	
		②		-	-	-	-	
		②		4.0	0.17	-	-	
		②		4.0	0.25	-	-	
		②		1.6	0.19	-	-	
		②		3.0	0.33	-	-	
		②		-	-	-	-	
		②		1.0	0.33	-	-	
		②		1.0	0.33	-	-	
		②		4.1	0.48	-	-	4.1
		②		4.6	0.31	-	-	
		②		5.0	0.60	-	-	
		②		4.0	0.40	-	-	
		②		4.0	0.31	-	-	
		②		3.8	0.38	-	-	
		②		-	-	-	-	
		②		4.0	0.23	-	-	
		②		3.0	0.15	-	-	
		②		4.0	0.31	-	-	
		②		4.0	0.31	-	-	

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>								
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			2.0	0.40	-	-	2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			1.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>								
<b>LR1 エネルギー</b>								
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIlm=		-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				-	-	-	-	-
<b>3 設備システムの高効率化</b>								
集合住宅以外の評価(3a.3b)		モデル建物法BEI <sub>lm</sub> 0.40		4.0	1.00	-	-	-
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	-
<b>4 効率的運用</b>								
集合住宅以外の評価				2.5	0.40	-	-	2.5
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制				2.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>								
<b>1 水資源確保</b>								
1.1 節水				3.0	0.15	-	-	3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				-	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				-	-	-	-	-
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>								
2.1 材料使用量の削減				3.6	0.63	-	-	3.6
2.2 既存建築躯体等の継続使用				2.0	0.07	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.25	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	-	再生砕石:外構舗装、排水施設、擁壁等の路盤	3.0	0.21	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				4.0	0.21	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		躯体+ベンキ仕上、露出配管、鉄骨ボルト接合	5.0	0.25	-	-	-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>								
3.1 有害物質を含まない材料の使用			F☆☆☆☆使用	5.0	1.00	-	-	5.0
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-	-	-	-
1 消火剤				-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	-
3 冷媒				-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>								
<b>1 地球温暖化への配慮</b>								
1 地球温暖化への配慮	①		ライフサイクルCO2概算値:71%	4.1	0.33	-	-	4.1
<b>2 地域環境への配慮</b>								
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制	独自		駐車場有り。車輛動線を考慮した配置計画としている。	4.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-	-
<b>3 周辺環境への配慮</b>								
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>								
1 騒音	独自			3.0	0.40	-	-	-
2 振動	独自			3.0	1.00	-	-	-
3 悪臭				-	-	-	-	-
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>								
1 風害の抑制				3.0	0.40	-	-	-
2 砂塵の抑制				3.0	0.70	-	-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-
<b>3.3 光害の抑制</b>								
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				2.3	0.20	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				2.0	0.70	-	-	-
				3.0	0.30	-	-	-

**重点項目スコアシート**

株式会社大綿 本社工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.1</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.1	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:3%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$  の総和

重点項目スコア=  $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社大綿 本社工場

計画上の配慮事項	
総合	地球環境負荷の低減に取り組んだ。
Q1 室内環境	居住エリアなし。
Q2 サービス性能	ゆとりある空間とし、フレキシビリティ性の向上に配慮した。 耐震性能は建築基準法に定められた耐震性を有するものとした。
Q3 室外環境(敷地内)	緑地面積3.0%を確保した。
LR1 エネルギー	高効率な照明器具を採用し、エネルギーの削減を図った。
LR2 資源・マテリアル	鉄骨現し部の仕上を塗装とする等、部材の再利用可能性の向上に配慮した。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2を29%削減した。 隣地に駐車場を確保し、交通負荷抑制に配慮した。
その他	特になし

